

強力有機物分解・発酵・腐植促進材 **有用微生物**が**残渣分解**を促進！



菌太郎



「残渣の主根が最も少なく簡単に引き抜くことが出来た。」
試験協力: 種苗販売会社内農場(愛知県)



無処理区



菌太郎1,000倍希釈

【試験概要】

- ・菌太郎・・・プランター/5g + 水: 5L (1,000倍希釈相当)
- ・処 理 日: 7月17日 処理後全ての区画をビニル被覆 1日2回灌水 (315cc X 2回)
※諸事情により9:00~15:00は遮光カーテン展張
- ・分解状況確認日: 9月5日



「高設栽培 (いちご) への「菌太郎」の使い方」

菌太郎を水に溶かし「菌太郎液」を作る。

詳細な希釈倍率は定めておりません。対象となる残渣・有機物に十分にかかるようご施用ください。

① « 動力噴霧器の場合 »

☞ 10aあたり (500~1000倍希釈相当)

菌太郎 : 100g ~ 200g

水 : 50ℓ ~ 100ℓ

※しっかりと残渣、培地全体にかけるようにしてください。

※状況により濃度は調整してください。



② « 原水の流量に比例して液肥を混入する液肥混入機の場合 »

☞ 液肥吸入させるための「濃度の高い菌太郎液」(10倍希釈)を作る。

バケツなどの容器に菌太郎500gと水: 5リットルを投入。(10倍液)

この容器から吸入のチューブを用いて混入させ、灌水させてください。

水量は500ℓで1000倍希釈相当

※状況により濃度は調整してください。



③ « 原水タンクで希釈させる場合 »

☞ 原水タンクの容量に応じて菌太郎を希釈、タンクの中で菌太郎液を作る。

菌太郎をタンクの中でしっかりと攪拌してください。

通常、残渣分解を促進させる場合は1000倍希釈相当、
手強い残渣と次作の着実な準備なら250~500倍希釈相当がオススメです。
※あくまでも「目安」です。処理時期(温度)、培地の状態によっても菌の働きが変わりますので、施用量は状況をみながら調整してください。

有機物分解能力を持った10種類の乳酸菌、 バチルス菌（枯草菌）、酵母菌などを含んだ資材です

作物残渣等の有機物を発酵分解して土に還し、
肥料としても有効活用できる。

しっかり分解

土壌を団粒化構造化し、通気性や排水性など優れた土壌にする。

ふかふか

優良菌が増殖し病原菌や害虫の少ない土壌にする。

繰り返し施用することで連作障害の軽減も期待できる。

【 施用の注意 】

- 石灰チツソ、殺菌剤との混用はお控え下さい。
殺菌剤を散布する場合は、前後3日空けてご施用ください。
完全にガス抜き後に散布して下さい。
- 日中の地温が10℃以上でご使用いただくと効果的です。
- 開封後、残りは湿気が入らないよう、しっかりと閉じてください。
開封後はできるだけ早めにご使用ください。
- ほ場「全面散布」及び「作条散布」を原則とします。
- 灌水チューブを使用する場合は、内部に本剤が詰まらないことをご確認の上、ご使用ください。
また、念のためご使用後は灌水チューブに水を流してチューブ内を洗淨してください。
- 施用後から定植までの期間は2～3週間は空けてください。
- 『竹満作』と併用するとより効果が高まります。



写真は500g

【 成分 】

土壌有用微生物群
通性嫌気性菌（乳酸菌・酵母菌）
好気性菌（有孢子乳酸菌・麹菌・枯草菌）
賦形剤（グルコース・でんぷん）

【 内容量 】 2 kg
 500g